

第 61 回 岐阜地域画像研究会

災害派遣で業務調整員が行ったこと ～DMAT を目指すあなたへ～

○岐阜市民病院 中央放射線部 高橋秀幸

【はじめに】

令和 6 年能登半島地震に関して、岐阜市民 DMAT, DPAT は 5 隊に渡り災害派遣を行ったが、そのうち 2 隊の災害派遣を経験した。DMAT 隊全体として行ったことは報告会等で行ってきたが、業務調整員目線でまとめたことはなかったので、今回、各シチュエーション毎にまとめ報告する。

【派遣期間】

第 1 隊は令和 6 年 1 月 5 日～8 日、能登総合病院を参集拠点とし、珠洲市総合病院の病院支援及び患者搬送の調整を行った。2 度目の派遣となった第 3 隊は令和 6 年 1 月 18 日～21 日、輪島市役所を参集拠点とし、輪島市門前町支所管内の孤立集落における各避難所の環境調査及び感染症のまん延状況の調査を行った。

【業務内容】

総じて述べると、EMIS の入力、j-Speed、Dr. JOY 等のアプリの管理、自分の荷物の管理、食料品の買い出し（全員分）、病院から持ち出す資金の管理、高速道路の通行証の管理、宿泊証明書の管理、車の整備（ガソリン・タイヤ・ウォッシャー液）、物資の積み込み・運搬、車の運転、通行可能な道の検索、利用可能な休憩所や給油所の調査、記録用写真撮影、DMAT の受付、クロノロ、被災病院の事務当直業務、ホテルの予約、他部隊との情報共有、自衛隊との作戦会議、超音波検査（技師として）、紙カルテの管理、病院への復命書、岐阜市及び岐阜県への報告書、資金の精算（領収書）、DMAT 服のクリーニングの手配等の業務を行った。

【まとめ】

派遣が決定してから、帰院して報告書を提出するまで各シチュエーション毎に行った業務を報告した。また、DMAT になるには『困った人を助けたい心』『家族の理解』『どこでも寝られる身体』が必須であり、その他『各専門職の知識』『コミュニケーション能力』『PC に強い』『地図が読める』『状況判断能力』等、備わっていると非常に有利になる能力も併せて紹介した。